

さくらインターネット株式会社

事業説明資料

2024年12月19日



－ 企業理念

「やりたいこと」を「できる」に変える

新たなアイデアの創出に強い熱意と情熱をもって挑戦するお客さまをはじめ、私たちとつながりのある全ての人たちのために、未来のあるべき姿を
思い描きながら「やりたいこと」を「できる」に変える―あらゆるアプローチを“インターネット”を通じて提供します。

－ 経営ビジョン

さくらに関わる全ての人が サクセスする世界をつくる

当社が提供するサービスを利用するお客さまをはじめ、取引先、パートナー、社員、あらゆるステークホルダーを巻き込むサクセスの連鎖で、「さくらに関わる全ての人の成功」を追求します。

－ バリュー

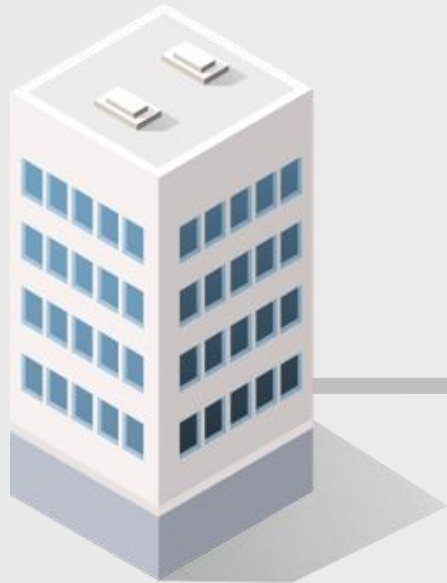
肯定ファースト／リード&フォロワー／ 伝わるまで話そう

当社の社員全員が実践していることが、チームで共創を生むための行動指針「3つのバリュー」です。社員が実践することで、当社の文化醸成の一助となっています。



クラウド

コンテンツ事業者



データ

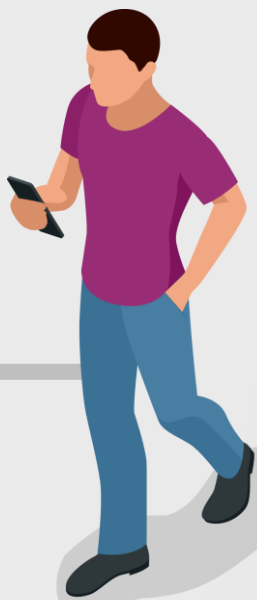


サーバー



インターネット利用者

インターネット



データを預ける

データを
保管・処理する

インターネットを
介してデータが流れる

ブラウザ・アプリ
からサーバにアクセスする

サーバー：止められないデジタルインフラを運用

拡張性・柔軟性・環境性に優れたデータセンターを自社運営



計算資源需要に対する強み

- 再生可能エネルギー100%、二酸化炭素(CO2)の年間排出量はゼロで運営。大量の電力を消費するGPUに対しても環境負荷を低減
- 拡張性・柔軟性に優れた設計と、これまで公共案件等へハイパフォーマンスコンピューティングを提供してきた知見・実績で計算需要の高まりに迅速に対応可能

石狩データセンター

クラウドコンピューティングに最適化した日本最大級の郊外型大規模データセンター。北海道の寒冷地特性を活かした空調の導入など、2011年の開所当初よりサステナビリティを高める取り組みを積極的に実施

東京ドームの約1.1倍という広大な敷地に、1棟あたり最大1280ラックまで対応できる分棟式の建物を、最終的には5棟/約6,800ラックまで増設可能。建物自体を分棟式とすることで、需要動向に応じた拡張が出来る。サーバールームも、無停電電源装(UPS)をサーバールームごとに設置するモジュール型で、建物と同様に需要動向に応じた拡張が可能

クラウドインフラストラクチャー、クラウドアプリケーション等の
クラウドサービスを中心に、**デジタルインフラ**を総合的に提供

クラウドサービス

- クラウドインフラストラクチャー
- クラウドアプリケーション



GPUクラウド
サービス

GPU ベアメタルサーバー
高火力 PHY

「NVIDIA H100 Tensor コア GPU」搭載のベアメタルサーバーで
複雑なデータセットの解析や、大規模モデルのトレーニングに

高火力 DOK

物理基盤サービス

ハウジングサービス、専用サーバサービス

その他サービス

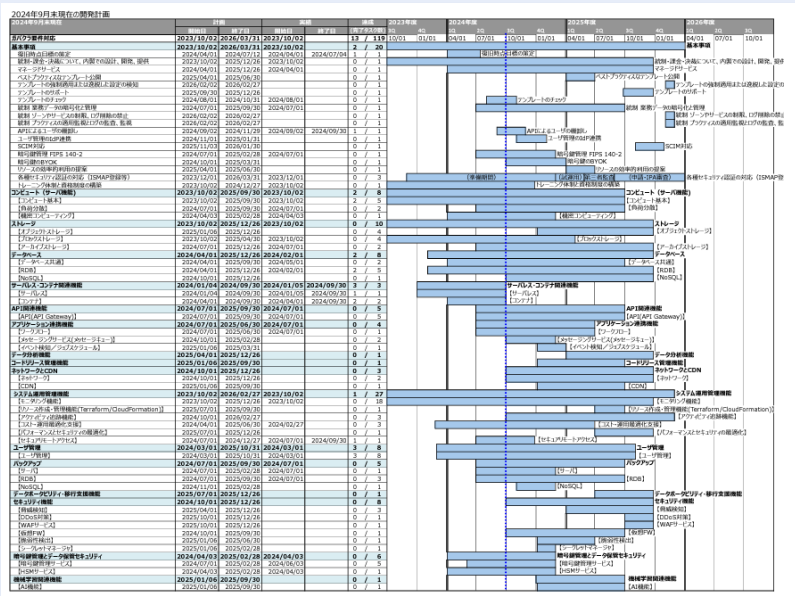
ガバメント系受託案件、IoTサービス、ドメイン・SSLサービス他

当社クラウドがガバメントクラウド国内企業初・唯一の認定

- 2025年度末までに技術要件をすべて満たすことを前提とした条件付き認定
- 要件充足に向け、今後はクラウドインフラストラクチャーサービスの開発強化と対応人員の拡充を加速
- 将来的にはガバメントクラウドへの参入を通じて、ブランディング強化とサービス技術水準の向上を図り、国内パブリッククラウド市場でのシェアを拡大を目指す

開発進捗状況（2024年9月現在）

デジタル庁より「開発計画全体に影響のある遅れはなく**順調な開発進捗**」と評価

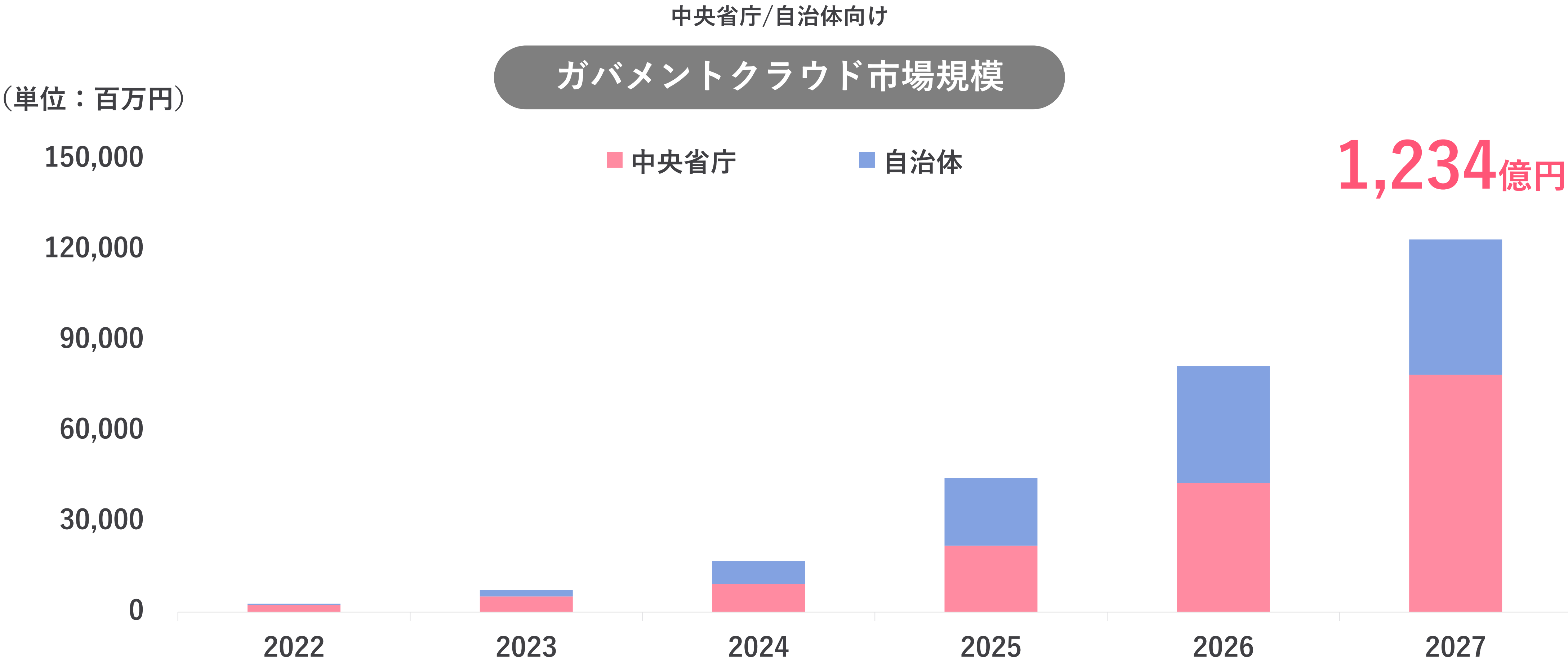


▲デジタル庁HPより：
さくらのクラウドの開発計画の進捗状況について

ガバメントクラウド採択状況（2024年12月現在）

クラウドサービス名	事業者
Amazon Web Services (AWS)	米アマゾン・ウェブサービス
Google Cloud	米グーグル
Microsoft Azure	米マイクロソフト
Oracle Cloud Infrastructure (OCI)	米オラクル
さくらのクラウド	さくらインターネット

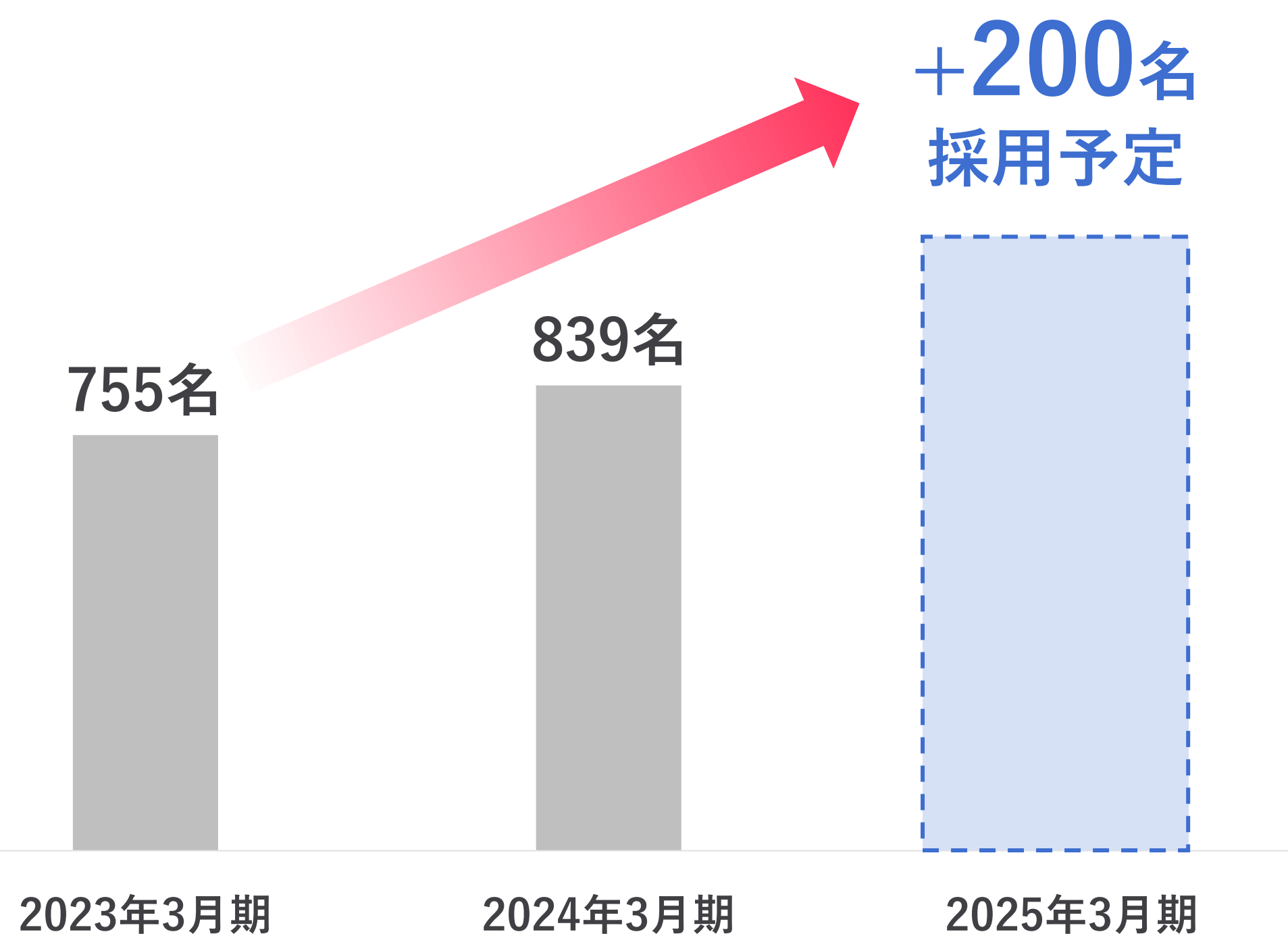
2027年のガバメントクラウド市場規模はCAGR（2022-2027）は113.2%、1,234億円



Notes:2022年は実績値、2023年は見込み値、2024年以降は予測値
出典：富士キメラ総研「2024 クラウドコンピューティングの現状と将来展望 市場編」

注力事業とそのサービスの共通基盤を支える**人材の採用・組織体制を強化し** 変化と成長を加速することで未来の稼ぐ力の向上につなげる

人員数推移（連結）

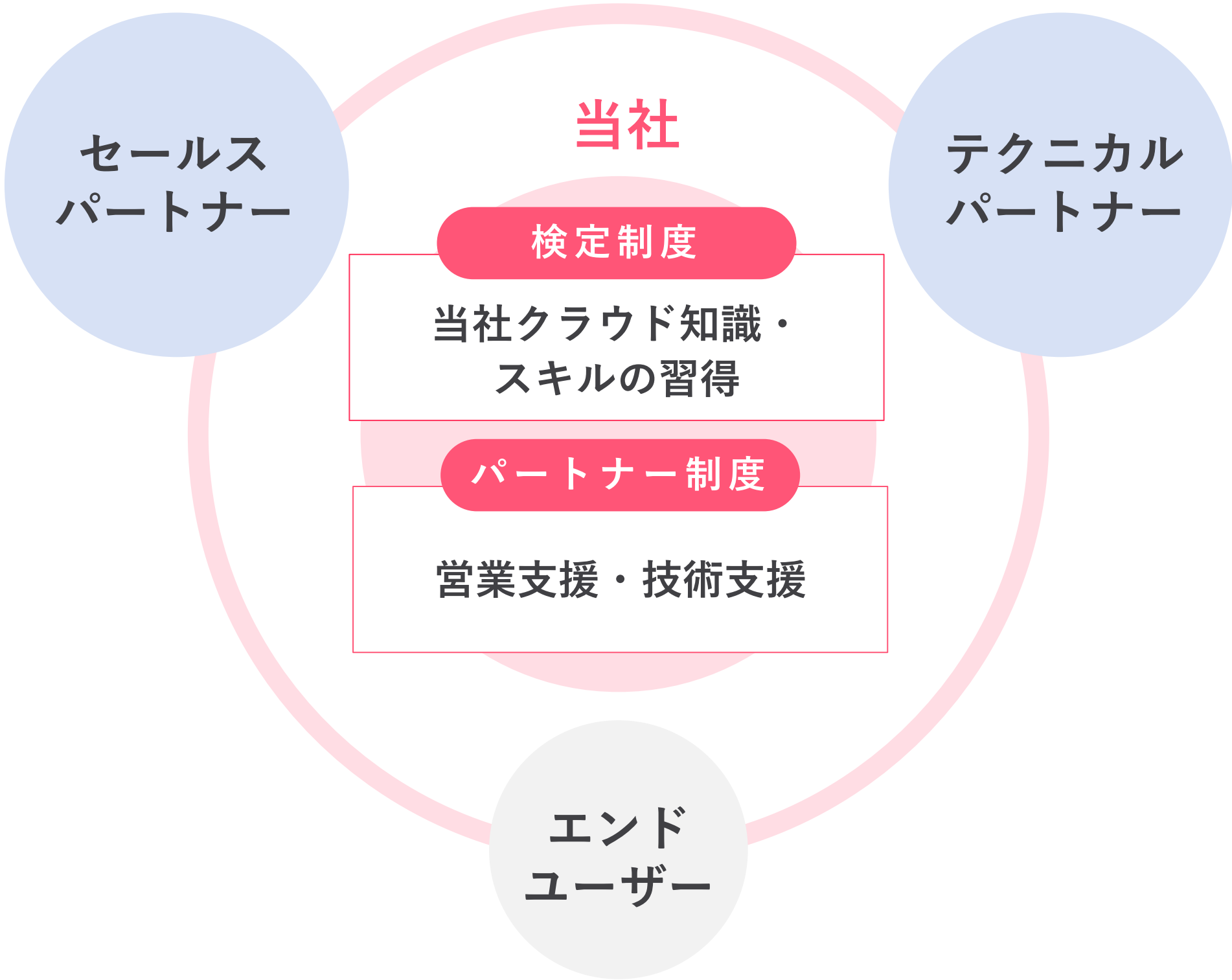


取り組み内容

- **200名の採用に向けた体制強化**
採用体制を強化し、前期より2倍の採用を実現
 - ・ 外部パートナー含め12名体制での採用を実行
 - ・ リファerral・アルムナイ・ダイレトリクルーティングのチャンネル強化を実施することで、2023年度対比2倍の採用を実現
- **戦略と連動した人材獲得**
 - ・ 採用のうち約50%をガバメントクラウド・生成AI向けGPUクラウドサービスへ振り向け、採用全体のうち73%が注力事業とそのサービスを支える共通基盤を強化する目的とした採用を予定
- **社員の成長と活躍の推進**
 - ・ 高度化する事業やプロジェクトへの積極参画による新たなスキル・経験の獲得
 - ・ 必要なスキルを獲得できる教育育成制度の再構築により成長を後押し

啓蒙活動・教育支援を通じて、顧客のDXを推進
パートナー・検定制度を開始、エコシステム構築に向けた取り組みを加速

顧客・パートナー・当社のサクセスの
連鎖（エコシステム）を構築



取り組み内容

- さくらのクラウド検定を開始（2024年9月に初回検定開催）



▲合格証書・合格認定ロゴ

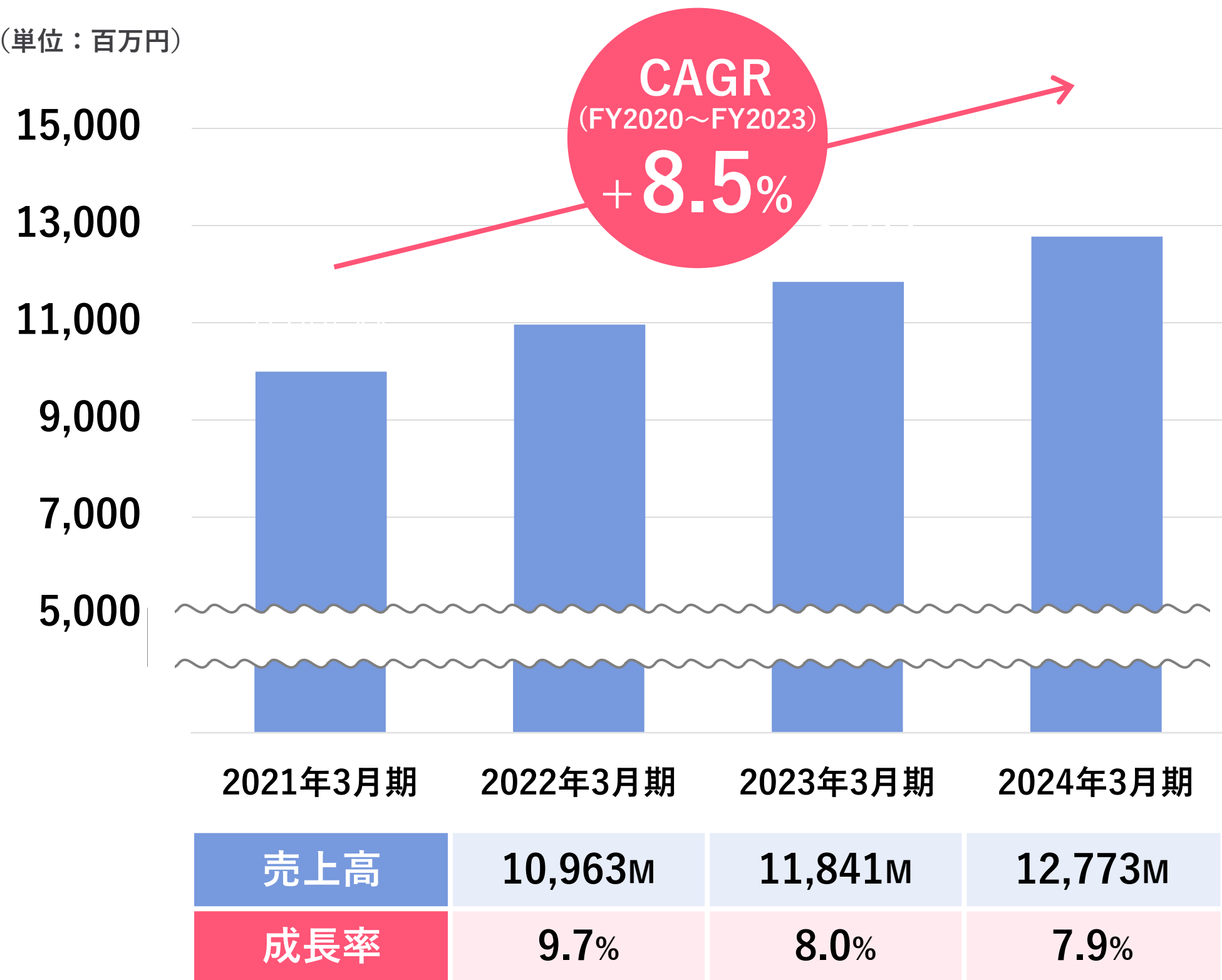
※実際に提供される合格証明書とはデザインが異なる場合があります。

- Q2時点で50社を超えるセールスパートナーを獲得
- 各種取り組みを通じた認知拡大で想起集合入り目指す

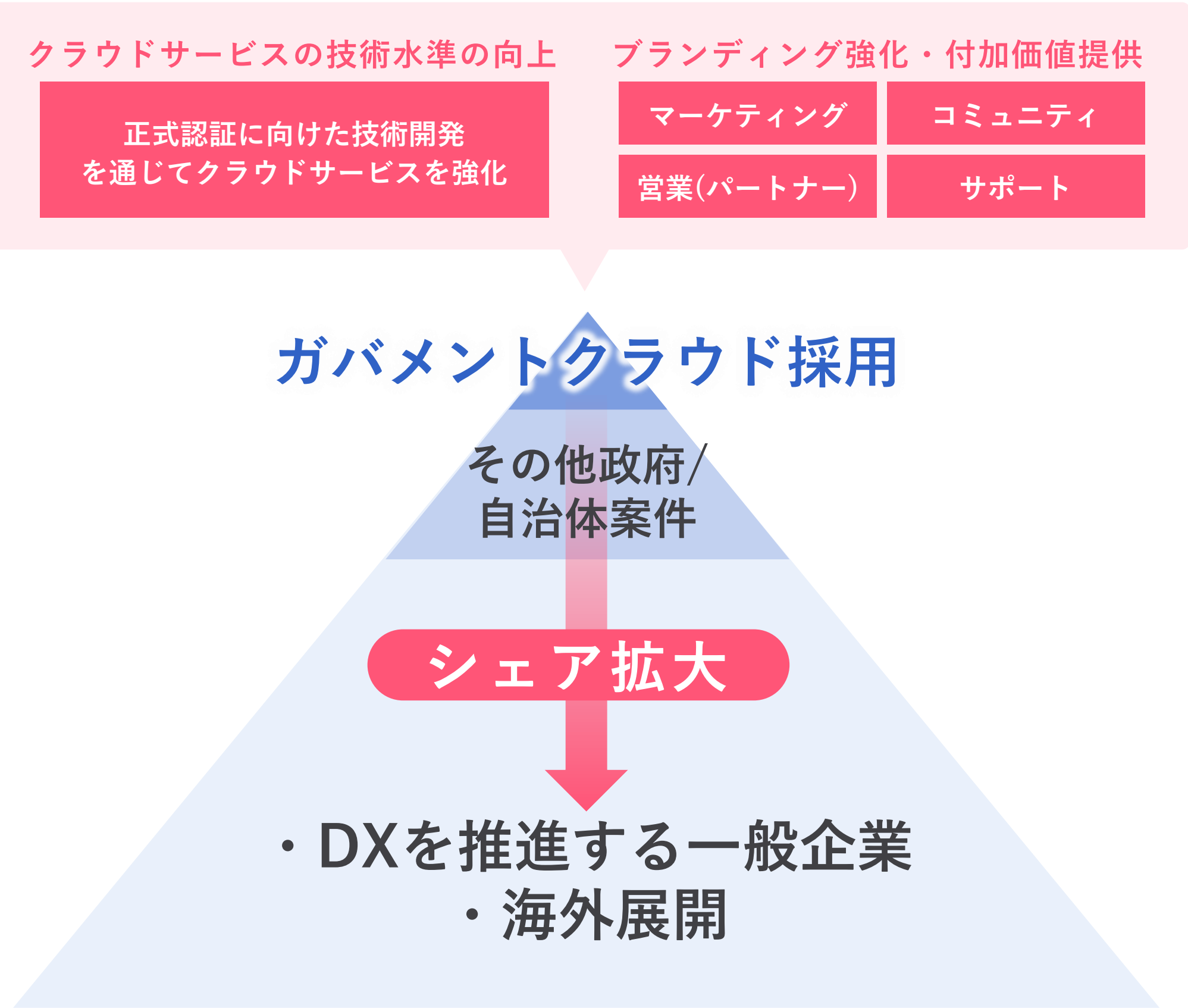
CAGR:8.5%の成長を実現してきた実績に加えて、ガバメントクラウドを契機とした技術水準の向上とブランディング強化、拡販施策により将来的には一般企業含めたシェア拡大を目指す

成長を実現してきた確固たる実績

クラウドサービスにおける売上高推移



ガバメントクラウドを契機としたシェア拡大



NVIDIA社のGPUを使用した、高性能かつ費用対効果に優れた 計算リソースサービスを**大規模言語モデル、生成AI等向け**に提供

GPUクラウドサービス概要

- 2024年1月よりNVIDIA H100 GPUを搭載した生成AI向けのGPUクラウドサービスの第1弾として物理専有型のベアメタルシリーズ「高火力 PHY(ファイ)」を提供開始
- 2030年度までに総額**1,130億円**規模の投資計画
- **再生可能エネルギー電源100%**で当社が運営する石狩データセンターで提供
- 国から事業費の**1/2の助成**（約575億円）を受ける予定
- 助成金の会計処理では、助成金分のBSを圧縮して以降の**減価償却費が1/2に減少**



▲2023年10月
石狩データセンターでのGPUサーバセットアップの様子

GPU調達、データセンター拡張やクラウドシリーズの提供等のサービス拡充を予定

GPUクラウド全体スケジュール											
	2024年3月期				2025年3月期				2026年3月期	2027年3月期	2028年3月期 ～2031年3月期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q			
経済産業省 助成金	■ 第1次投資計画 130億円規模 (助成金：最大68億円)				■ 第2次投資計画 1,000億円規模 (助成金：最大501億円)						
サービス ローンチ				● 第1弾 「高火力 PHY」 提供開始	● 第2弾 「高火力 DOK」 提供開始			○ 第3弾 高火力 VM版 提供開始予定			
GPU調達				H100 2,000基 設置 (2024年6月に設置完了)				H100 840基 設置	H200 1,072基 設置	B200をはじめとする次世代GPUを継続的に確保	
データセンター 拡張								第1期コンテナ型 DC構築	第2期コンテナ型 DC構築	第3期コンテナ型 DC構築	

○ … 予定

幅広いターゲットを取り込むため、より小規模なユースケースや
予算規模の顧客層向けのサービスラインアップを拡充

● 生成AI向けGPUクラウドサービス「高火力シリーズ」

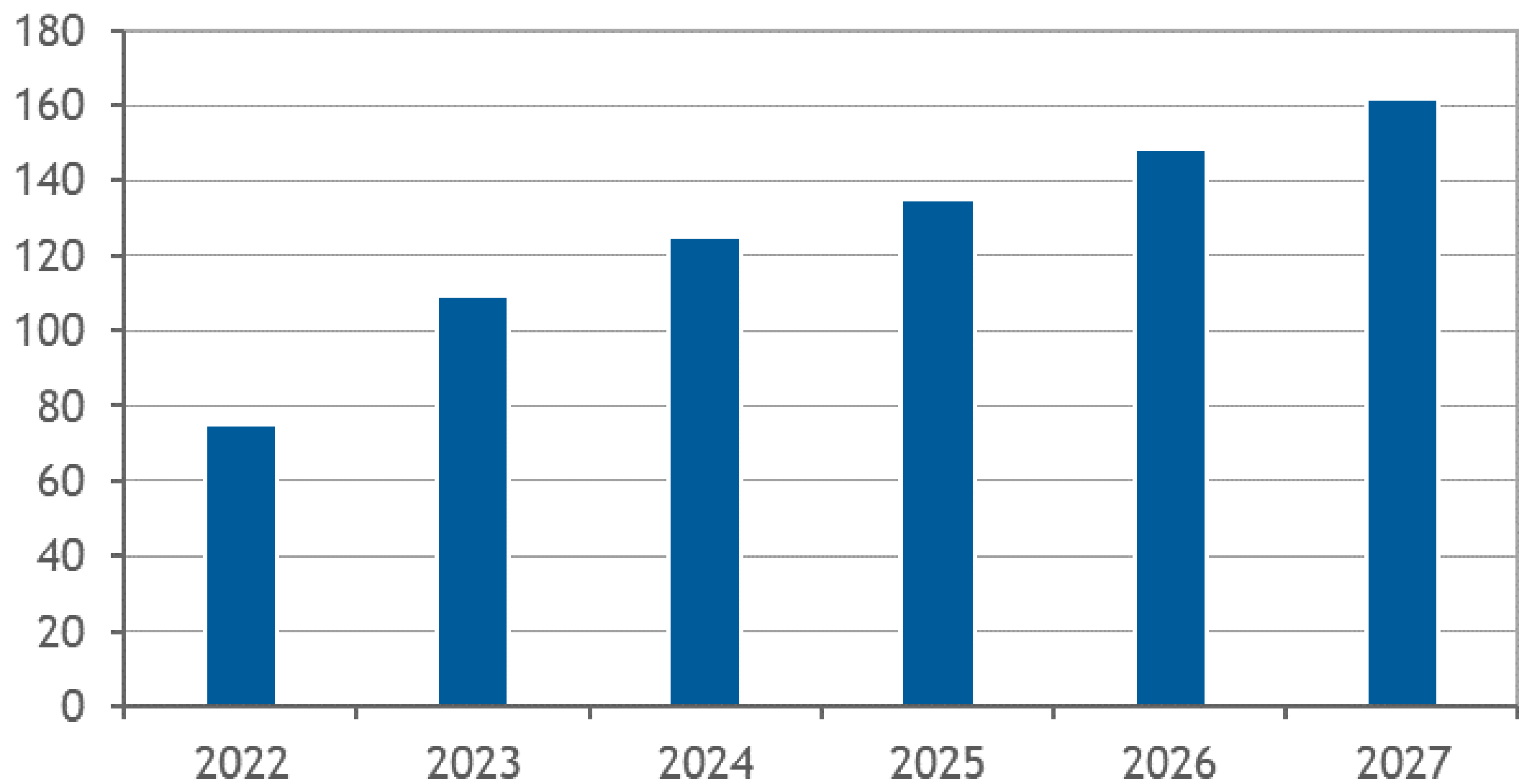
提供時期	サービス名	特徴	ターゲット
2024年1月	高火力 PHY (ベアメタル)	● 「NVIDIA H100」を搭載した物理的なサーバーを丸ごと一台提供するサービス ● より高性能なGPUで複雑なデータセットの解析や大規模モデルのトレーニングに	大企業（メーカー等）やAIメガベンチャー、研究機関
2024年6月	高火力 DOK (コンテナ)	● 「NVIDIA H100」でDockerイメージの実行ができるコンテナタスク実行サービス ● 生成AIや機械学習に最適なGPUを初期費用なし、秒単位課金で提供	安価かつスポットでNVIDIAのGPUを利用したいユーザー
今期中 (予定)	高火力 VM版	● NVIDIAのGPUを搭載した物理サーバー上で複数の仮想サーバを構築しそのひとつひとつをお客様に提供するサービス ● 生成AIや機械学習に最適、高性能なGPUを時間単位で提供	機械学習のスポット利用や、AIアプリケーション開発者

国内AIインフラ市場規模

[2022年～2027年度]

AI活用の進展によりAI向けサーバが成長をけん引し、
CAGR（2022-2027）**16.6%**、2027年の市場規模は**1,615**億円と予想されている

（単位：十億円）



Notes:2022年は実績値、2023年は見込み値、2024年以降は予測値
出典：IDC Japanプレスリリース「国内AIインフラ市場予測を発表」（2024年3月7日）

- 2023年は生成AIへの投資が活発化し、国内AIインフラ市場は1,000億円を超える規模に急成長
- 今後AI活用の裾野の広がりや、マルチモーダル化の進展による画像や動画の生成などで、AI向けのコンピューティングおよびストレージリソースの需要はさらに高まり、AI向けサーバが成長をけん引する見込み
- 2022年～2027年の年間平均成長率（CAGR）予測は**16.6%**
- 2027年の支出額は**1,615**億5,000万円と予測

旺盛な需要を背景に国内AIプラットフォーム市場における
先行優位ポジションを獲得し、サービスラインアップの拡充で収益拡大を目指す

3 年販売計画

GPU第1次投資分全て（2,000基）の稼働（Q2～）により当期売上高50億円を見込む
※第2次投資計画のうち214億円については、最新GPUの今期中の調達・サービス提供を目指す（業績予想に与える影響については現在精査中）

2億円
(2024年1月末より提供開始)

2024年3月期

50億円
～
100億円※

2025年3月期

100億円
～
200億円

2026年3月期

200億円
～
300億円

2027年3月期

生成AI向けGPU基盤等の整備に向け、**約180億円**を公募による新株式発行で**調達**
AI市場の旺盛な需要に対して**早期の投資**により**先行優位ポジションの獲得**を目指す

新株式発行の概要

調達金額	18,052,492,500円	発行株式数	増加株式数：4,270,000株 発行済株式総数：41,890,700株（2024年6月30日現在。自己株式含む）
資金使途	GPUクラウドサービスにおけるGPUサーバ等の調達、石狩データセンターの能力増強などの設備投資資金として充当予定		

資金使途の概要

NVIDIA社のGPU「NVIDIA HGX B200 システム」を皮切りに、次世代GPUを継続的に整備

GPU機材

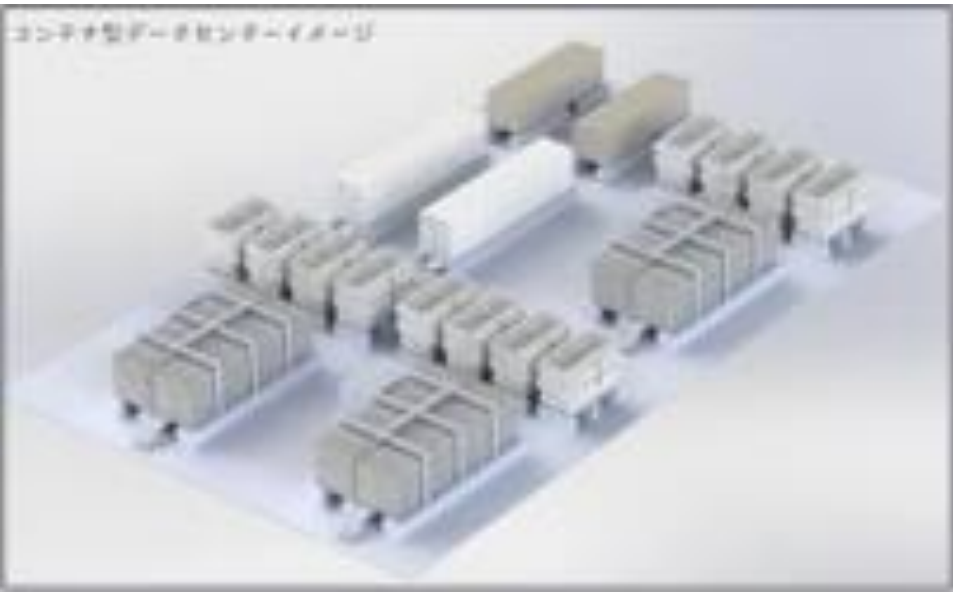
ネットワーク機器

ストレージ機器

データセンター設備



▲2023年10月：石狩データセンターでのGPUサーバセットアップの様子



▲コンテナ型データセンターイメージ

GPUクラウドサービス約2,000基の収益化達成と
クラウドサービスの好調な売上推移により、上期の売上・利益ともに過去最高

(金額：百万円)

科目	'24/3期 Q2	'25/3期 Q2	前年同期比	
	金額	金額	増減額	増減率 (%)
売上高	10,343	13,271	2,928	28.3
営業利益	249	1,295	1,046	419.4
経常利益	172	1,102	929	538.2
親会社株主に帰属する 中間純利益	175	710	534	305.4

GPUクラウドサービスの提供とクラウドサービスの好調な売上推移により
売上・利益ともに過去最高の予想

(金額：百万円)

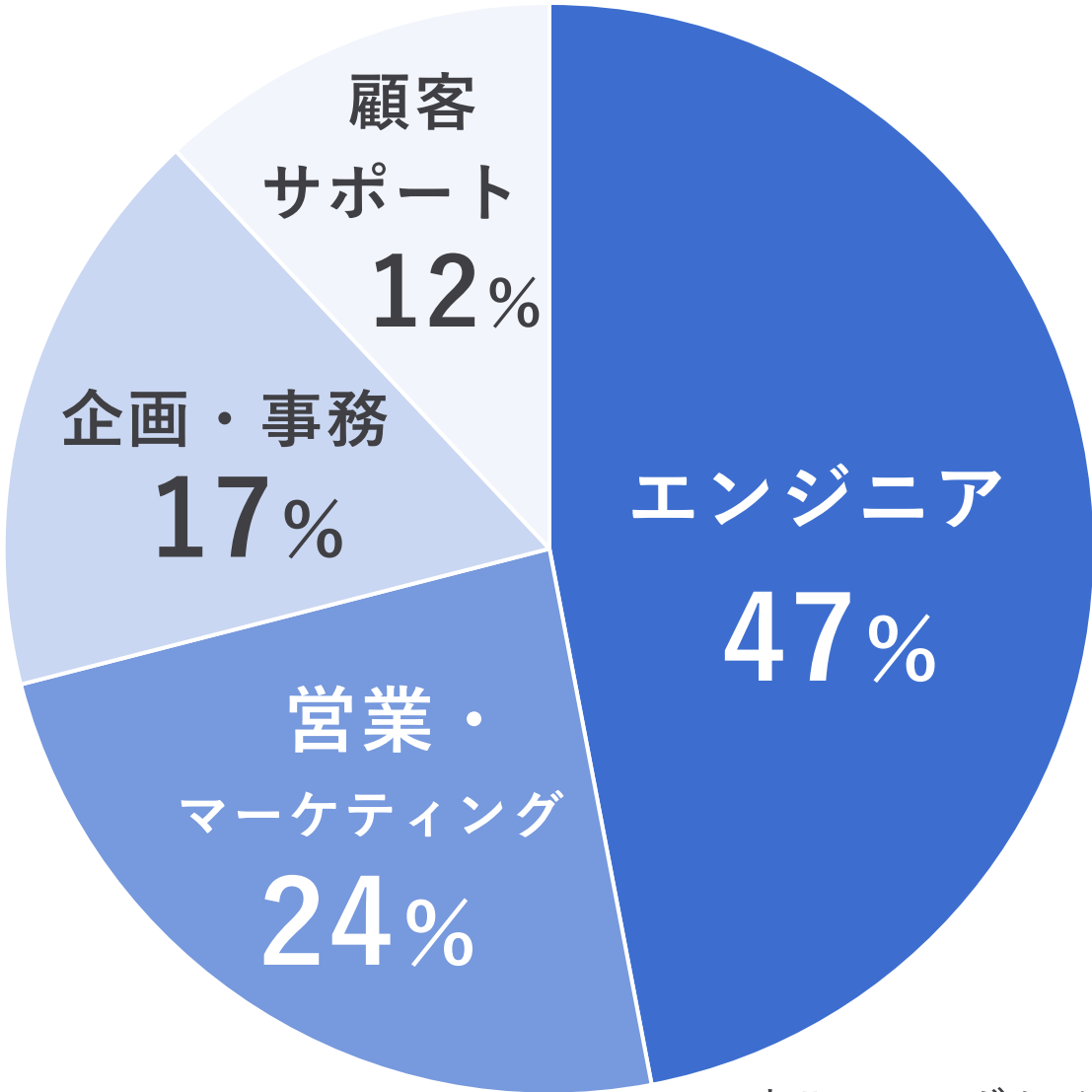
科目	'24/3期 実績	'25/3期 予想	前期比	
	金額	金額	増減額	増減率 (%)
売上高	21,826	29,000	7,173	32.9
営業利益	884	2,600	1,715	193.9
経常利益	764	2,450	1,685	220.6
親会社株主に帰属する 当期純利益	651	1,550	898	137.8

今期200人規模の採用を計画、上半期で **122名**※1を獲得（進捗率61%）
成長戦略の推進を加速するため、8割をリーディングプレイヤー※2以上で採用

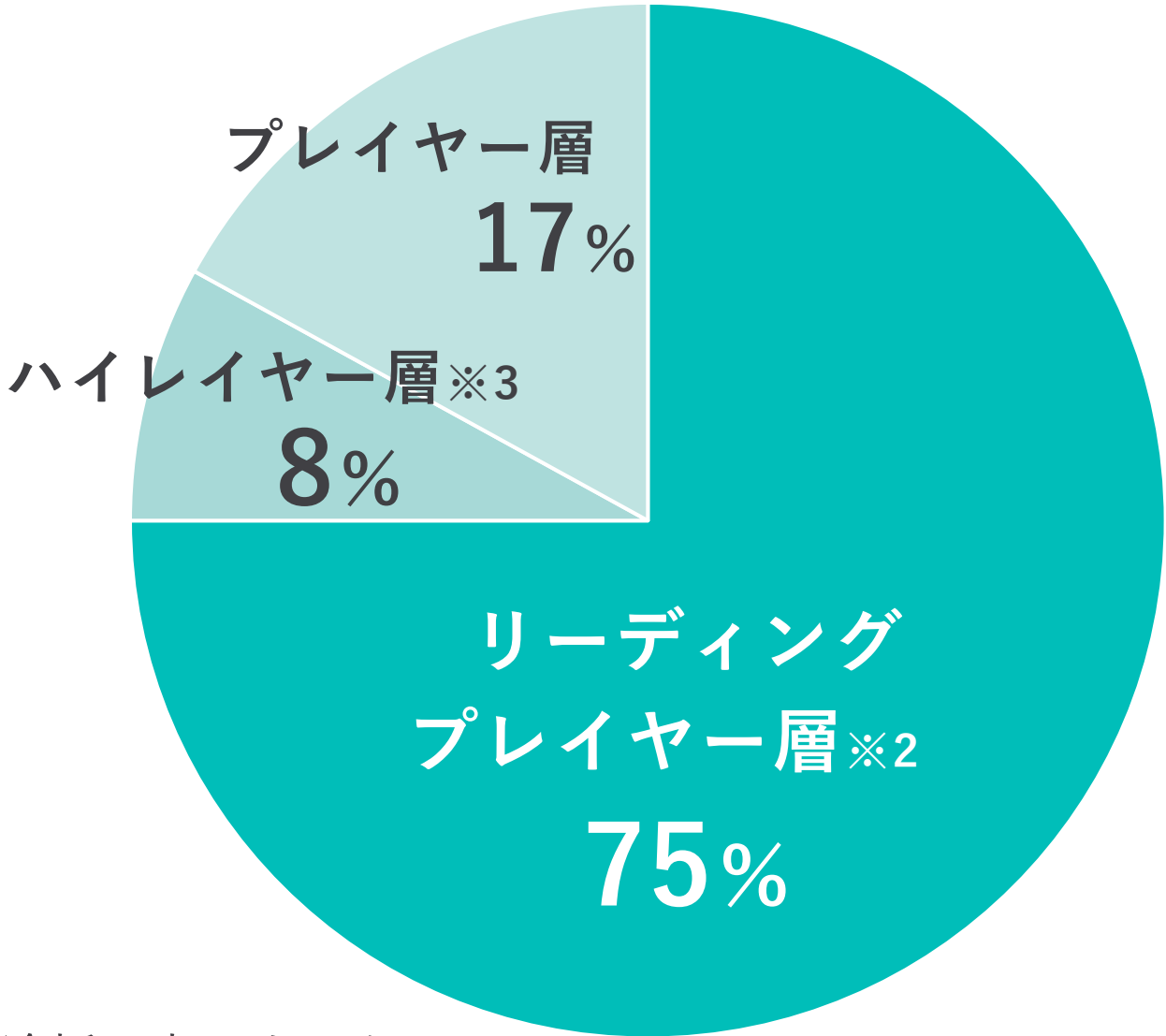
当期採用実績

人員数推移（連結）

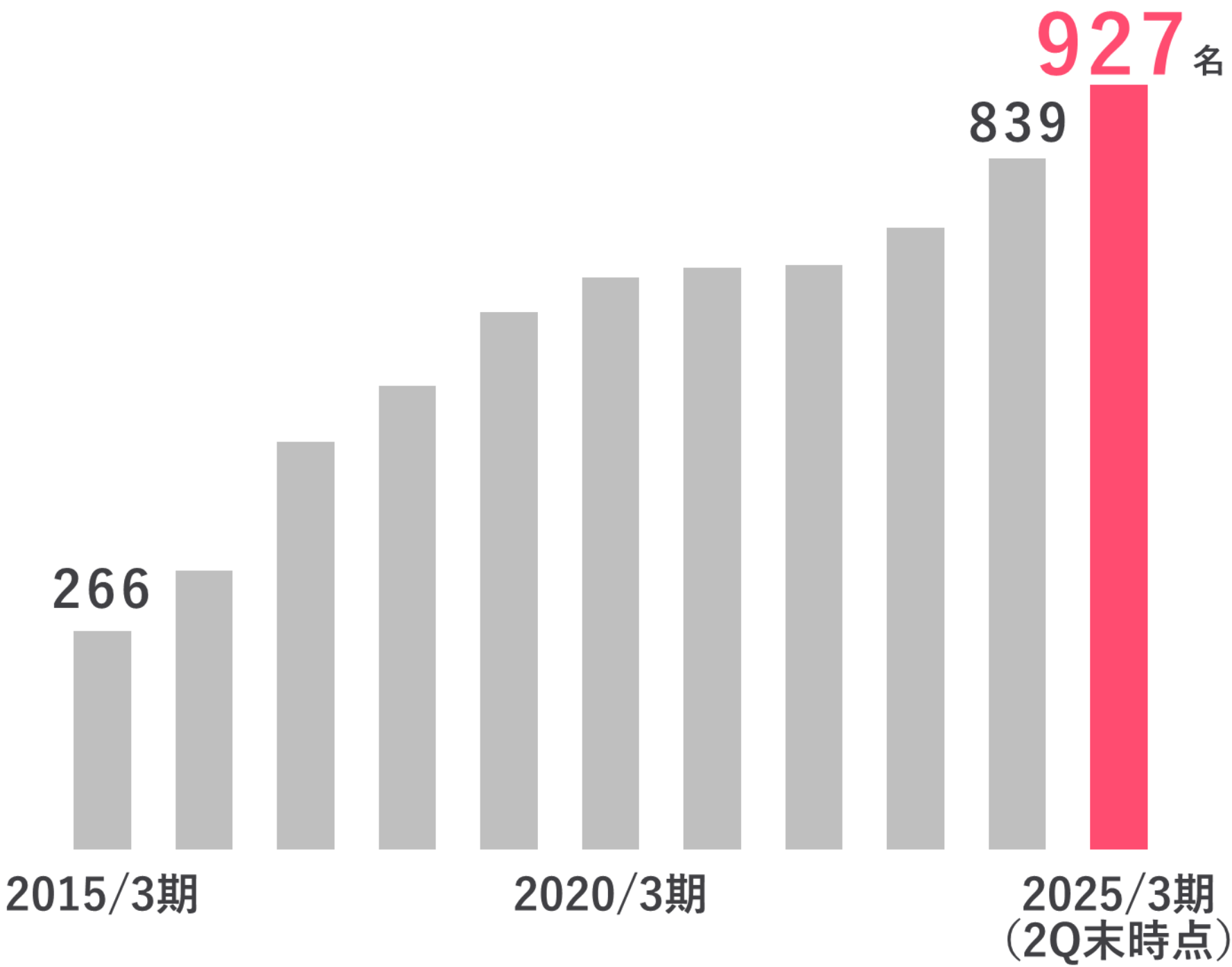
職種別内訳



レイヤー別内訳



内訳はいずれも中途採用者によるもの



※1 年度内入社予定を含む
※2 高い専門性と実行力をもち、事業・組織全体の成長・変革をけん引する人材
※3 専門性と実行力をもち、担当領域をリードする人材

デジタル分野の人材育成や経営層・ハイレイヤー層の拡充と多様化を通じ、
経営機能の強化と事業・業務の変革を推進

社員が学び続ける機会の提供

「Di-Lite」※の資格取得を推奨

エンジニアに限定せず、すべての社員のデジタルスキル習得・向上を目的としたITパスポート試験を入り口に、データサイエンティスト検定、G検定を含む「Di-Lite」※の資格取得を推奨し、生成AI領域を含むDXをリードする人材を支援

※Di-Lite：「デジタルを使う人材」であるために、全てのビジネスパーソンが、共通して身につけるべきデジタルリテラシー範囲



成長支援のためのプログラム

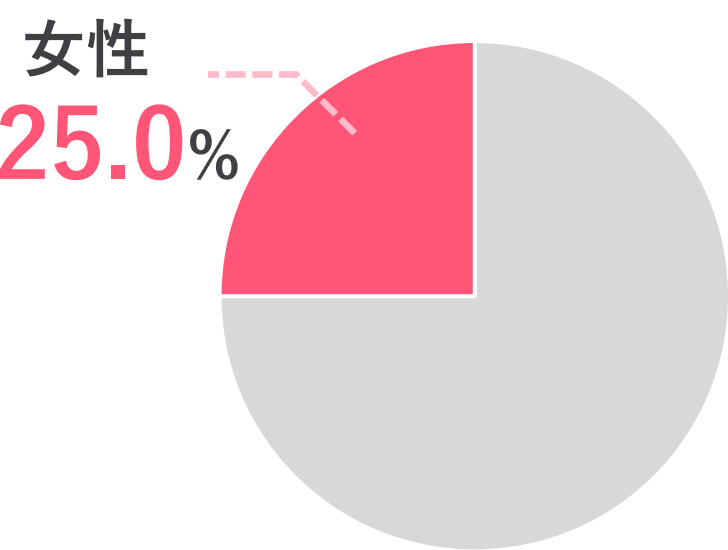
キャリア相談から自由に受講内容を選択できる外部動画研修など、成長したい、学びたい社員を積極的にサポート

- キャリア相談窓口 相談員：有資格者4名を含む、部門や経験の異なる8名
- 外部動画学習サービス 利用実績：発行アカウント数325、受講動画数925（※2024年5月～9月）
- 資格取得の費用補助
 - ・ 教本購入費用全額補助、資格試験受験費用全額補助（※合格時）
- 有償生成AIサービスの利用費用全額補助（※ITパスポート試験の合格者を対象）

経営機能の強化と未来の経営人材育成

執行役員増員を通じた業務執行体制の強化により、経営人材育成と同時に経営機能を強化。女性執行役員の登用が経営層の多様性を広げるとともに、次世代の女性のロールモデルになることも期待

執行役員含む女性役員※比率



※取締役・監査役・執行役員
※役員構成・人数は2024年9月30日時点

事業・業務の変革のための人材強化

事業はもちろん企業規模も拡大を続ける中、中途採用は事業の中核を支えるリーディングプレイヤー以上が中心に。従来の枠組みの打破や新たな価値の創出を先導する、業界トップレベルのスペシャリストも獲得

スペシャリストの活躍領域

- ネットワークマネジメントのスペシャリスト
- データエンジニアリングで活躍、複数社でのCTO経験
- 大手IT企業でエンジニアリングマネージャーなどを歴任 など

約9割の社員がリモートで就業。場所によらず活躍できる環境と多様な働き方を支える制度により
個々のパフォーマンス発揮と優秀な人材の確保・定着につなげる

2023年度平均
リモートワーク
実施率（非出社率）
89.5%

2023年度
平均残業時間
9時間28分

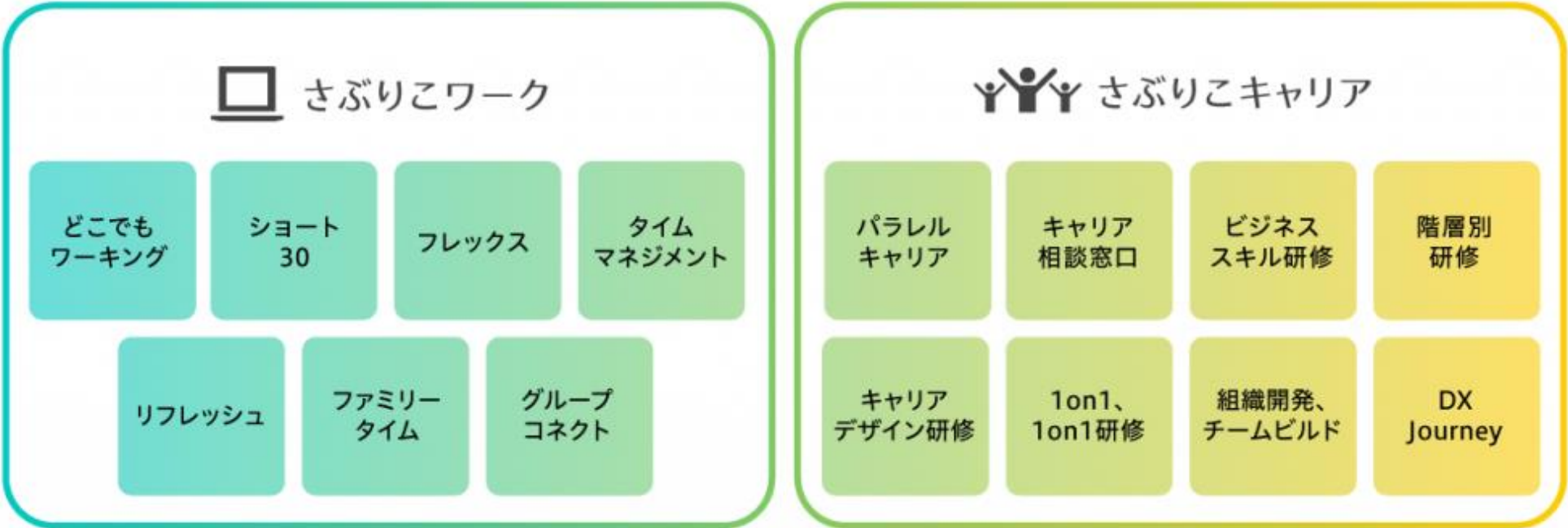
2023年度
離職率
2.5%

2023年度
育児休暇取得率
男性 **77.8%**
女性 **100%**

育児休暇における男性の
平均休業期間：71.9日



多様な働き方を支援する「さぶりこワーク」と
キャリア形成を支援する
「さぶりこキャリア」制度を導入





■IRに関するお問い合わせ先

IR情報 お問い合わせフォーム

<https://www.sakura.ad.jp/corporate/ir/contact/>

E-mail : ir@sakura.ad.jp

当資料に掲載されている業績予想などは、資料作成時点における弊社の判断に基づいており、その情報の正確性を保証するものではありません。さまざまな要因により、当資料記載の業績予想とは異なる結果となりうることをご承知おき下さい。